

○北島敬也・中原秀人・佐伯孝浩
(福岡農総試)

【目的】

福岡県の園芸品目の基幹品目であるイチゴ作は、近年1戸当たり作付け面積は20a程度で停滞し、栽培農家数の減少から作付け面積も減少傾向にある。産地規模の維持・拡大のため、規模拡大による大規模経営の育成が急務となっている。大規模経営を確立するためには、総労働時間の短縮や出荷ピーク時の対応、収穫・調製にかかる時間の削減、ハウス内管理作業の効率化などの課題がある。ここでは、雇用労働型大規模経営と家族労働型大規模経営における経営的特徴と効率化や省力化に関する技術を明らかにし、雇用労働型大規模経営確立のための省力・軽労化技術と雇用労働の活用について検討した。

【材料および方法】

対象農家は、雇用労働を活用した県北のA経営(70a)と家族労働を中心とした県南のB経営(48a)を選択した。品種はともにあまおうである。

調査方法は、聞き取り調査および収穫・調製作業のタイムスタディである。

【結果および考察】

1. 大規模イチゴ作経営における経営的特徴

1) 雇用労働型経営

A経営の労働力は経営主と4名の常時雇用で、春先の管理・収穫時に3名の臨時雇用を活用している。栽培方法は、土耕栽培であり、作型は雇用の従事時間を考慮する必要があるため、早期作型を主体に3作型を組み合わせ、ピーク期の分散を図っている。販売方法は、経営規模の大きさを活かし、複数の販売チャンネルを組み合わせている。複合品目として夏場にメロンとトルコギキョウを組み合わせている。

2) 家族労働型経営

B経営の労働力は2世代4名の家族労働を主体に、農繁期の管理作業に臨時雇用を活用している。収穫・調製作業は家族のみで行っている。栽培方法は高設栽培を面積の半分に導入している。作型は普通作型を主体に株冷を組み合わせ、ピークの分散を図っている。育苗方式は短期集中で作業を行える反面、病気の発生リスクも高い挿し苗方式

と鉢受け方式を併用している。販売は全量系統共販である。複合品目は夏場にブドウを組み合わせている。

2. 雇用労働型大規模経営確立のための省力・軽労化方策

1) 雇用労働力の導入と作業の分担

A経営では、経営主と雇用者の作業が明確に分担され、重作業や判断が必要な管理的作業を経営主、軽作業を雇用者が分担している。

B経営では基本的には家族全員が全作業に携わっている。

2) 栽培方式の選択と省力的施設・機械の導入

A経営では、雇用労働力が主に高齢者であることから、立ち作業の少ない土耕栽培を選択している。また、施設ほ場の整備、大型連棟ハウスの導入、育苗床とハウスを1ヶ所に集積するなど農作業の効率化を図っている。また、経営主自身が行う重作業に対し、省力的施設や機械を導入し省力・軽労化を図り、より栽培管理や労務・経営管理のための労働時間に振り向けている。経営主の省力・軽労化を図る施設・機械には自動換気装置、循環扇(常設によるダクトの不使用)、畝立て作業での畝成型機などがある。

3) 収穫・調製・販売面での対応

A経営では収穫時に等階級毎の一次選別を行っており、調製作業における1パック当たり重量の微調整は雇用者でも容易に行える。また、一部の青果商への出荷においては調製作業を必要としない収穫箱のままの荷姿で出荷し、調製作業時間の削減に努めている。

B経営では家族労働により収穫・調製が行われ、未選別のまま収穫し、調製作業では1パック当たり重量の微調整は厳密に行われない。

以上のように大規模経営でも雇用労働型と家族労働型では省力・効率化に際し、選択されている技術や方法が異なる。雇用労働型大規模経営の確立には、省力・効率的な技術の導入とともに雇用労働を組み入れた作業体系の組立が必要となってくる。